

令和7年度 第3回健やかほうふ21計画推進委員会 会議録要旨

1 日時	令和8年1月29日(木) 午後2時から午後3時30分
2 場所	防府市保健センター
3 出席者	<p>【委員】 山本(一)委員、竹田津委員、山内委員、藤井委員、吉富委員、松田委員、山本(憲)委員、西丸委員、横田(さ)委員、久門委員、松野委員、宮岡委員、古谷委員、山野上委員、目代委員、大本委員、古賀委員、横田(恵)委員</p> <p>※欠席：島田委員、椿委員、末廣委員、岡田委員 (事務局)</p> <p>石丸(保健こども部長)、尾中(保健こども部次長)、山崎(健康増進課長)、津田(課長補佐)、島(技術補佐)</p> <p>健康増進課：渡邊係長、永谷、坂本、三好、高山 こども相談支援課：小野主幹、齋藤係長 高齢福祉課：吉村</p>
4 傍聴者	0名
5 議題	(1) 健やかほうふ21計画(第3次)について (2) 健やかほうふ21計画(第2次)の推進について (3) 各団体の取組について(意見交換)

・次第「1 開会」「3 閉会」は記載省略

2 議事

(1) 健やかほうふ21計画(第3次)について (資料1)

<事務局説明>

健やかほうふ21計画(第3次)パブリックコメントの報告と内容について

(2) 健やかほうふ21計画(第2次)の推進について(資料2)

<事務局説明>

「幸せます健康まつり」の振り返り

(3) 各団体の取組について(意見交換)

意見交換 1) 「幸せます健康まつりの振り返り」について

【議長】

事前に記入していただいた「健やかほうふ 21 計画第 3 次に向けて思い記入シート」をもとに、意見交換をお願いしたい。「幸せます健康まつり」に参加された団体より、当日の取組やその後の健康づくり推進に関する各団体の活動についてご発言いただきたい。

【A】

歯科医師会では今までこの活動に協力する先生が少なかったため、若手を中心に声をかけ歯科医師の人数を増やして歯科相談を実施した。ガムもしっかり噛んでもらい参加した子どもたちも喜んでいたので、今後もこのような活動をしていきたい。こういう活動に参加してくれる先生に執務手当を出そうということで、今回歯科医師会で予算を確保した。多くの先生たちが積極的に参加していただけるよう活動していく。

【議長】

出務手当は医師会でも参考にしたい。

【B】

薬剤師会のブースでは肺年齢測定を行い、体験型のためか非常に好評だった。イベント内で肺がん結核検診も実施していたため、興味を持った人が多かったと思う。今後は禁煙相談薬剤師、健康エキスパート薬剤師などをより周知し、利用してもらえよう活動していく。

【C】

農協のブースでは、オクラや小松菜などの農産物が当たるガチャを行い、子どもからの反応がかなり良かった。市農林水産課作成の小松菜レシピも用意した分をすべて配布でき、PRできた。野菜のおいしい食べ方を伝えるために呼んだ食育ソムリエの方が単なる手伝いになってしまったのが反省点。また、学生サポーターはよく手伝ってくれていたため、今後もサポーター制度を活用し一緒にイベントを盛り上げたい。

【D】

社会福祉協議会は今回、展示での参加でふれあいいいききサロンの紹介を行った。参加者に自分の地域での活動に興味をもってもらうため、チラシに市内 136 か所ある「ふれあいいいききサロン」の紹介を掲載し、配布してもらった。健康づくりの土台である社会とのつながりは、計画の中で示されているため、今後もサロンの活動について社会福祉協議会で支援をしていきたいと思っている。これらの活動は、活動報告として社会福祉協議会のホームページに掲載しているため、興味があればホームページも見たい。

【E】

防府市リハビリテーション専門職協議会は、参加者が自分の体の状態について知るきっかけとなるよう、垂直飛びや前屈、ツーステップ等体験型ブースを設置し、日常生活で行える

取り組みをフィードバックするよう心がけた。また、ステージイベントでは山口弁ラジオ体操と流行りの曲に合わせたリズムダンスを行い、若い方も含めたくさんの方が参加してくれた。チラシが見やすかったことや、様々なブースを回る工夫がされていたことが良かったという声も聞いた。これだけ多くのブースが出せていることから、この推進委員会を通じてのつながりができていることを改めて感じた。

【F】

食生活改善推進協議会では、10品目食品群のチェックシートを配布し、前日に食べた食品群に丸をしてもらった。参加者は親子や若い方もおられたが、年配の方が多かったため、若い人にもより参加してもらえよう声かけをしていきたいと思う。

今後の健康づくりの教室について、短大生や小学生に伝えられるよう勉強しているが、若い時からの健康づくりを伝えられるよう工夫していきたいと思う。

【G】

当日は食育輪投げを行い、お子さんから幅広い世代に楽しんでもらえた。輪投げをしながら、食材を3色に分けて食事をとって行くよう声かけを行った。こどもが遊んでいる間は親から食事に関する話を聞いたり、専門的な話をすることができた。食事バランスを考えながら輪投げをしてもらえてよかった。こども達に食の教室を行っているため、今後も引き続き食の大切さを伝える活動に尽力していきたい。

【議長】

医師会ブースでは、人体模型に触れたり、医師や看護師の白衣を着て写真撮影を行う企画を目玉として行っており、こども達に人気があった。今年は初めて胃カメラを持って行って見たが、ちょっと動かすだけではあまり面白くないのか人気が無かったが、毎回ブースには楽しく参加させてもらっている。医師会は今回、看護学校の学生が手伝いに来てくれ色々やってくれたのも良い機会となり良かった。参加したこども達が将来、医療関係の職業を目指してくれたらという思いもありながら参加させてもらっている。

意見交換2) 健やかほうふ2 1 計画(第3次)の推進を継続して行うための取組みについて

【H】

丸久では現在、市で取組んでいる健康づくりに関する事業の周知や広報等に尽力しており、今後も継続していきたい。イベント等の開催があれば店頭にはポスター等を設置し、多くの市民の目に触れる機会をつくりたいと思う。会社としては食育活動の推進や健康経営の取組みを強化し、継続していく。

【I】

養護教諭が直接子どもたちへ健康に関する話をする時間があまり取れない。子ども達も授業や体力づくり等、忙しい毎日を送っている。限られた時間でも養護教諭として専門的な話を伝えられるよう、養護教諭部会でも睡眠や歯科などを分担し、熱心に取り組んでいる。

また、担任の先生方の仕事量が多く帰宅が遅い現状があるため、先生方のメンタルケアも養護教諭として取組みたい。

【J】

この委員会に参加することで、今まで知らなかったことをたくさん教えていただき、勉強になっている。まずは自分の家族の健康づくりに取り組むことで普及につながると思うので、できるところから始めていきたい。

【K】

公認心理師協会の会員それぞれが、日々の業務で取組んでいる。自殺者数の現状について、全国的に数は減っているが小中高生の自殺者数は増加しているという報道があり、防府市でも若者の自殺者が多いことが気がかりである。多様化する社会に採まれ救われない子ども達に対し、支援が届く方法について本当に考えていかないといけないと思う。

また、発達の多様性としてニューロダイバーシティやラーニングダイバーシティという言葉も聞かれるようになった。様々な能力がありながら埋もれてしまい、自尊心が下がってしまう子どもが増えていないかという懸念もある。公認心理師協会として教育領域とも連携し、学校現場でどのような悩みを抱えている子どもが増えているか、どうケアしていけるか等を検討していきたい。

【L】

教員として体育指導に関わった経験から若い世代とも接することがあり、現場の子どもたちへの取組みや自身の健康づくりも含め勉強したいという思いから、公募委員として4年間参加させていただいた。個人としては、やまぐち健幸アプリを活用し歩数の目標を決めて毎日歩いている。同世代の人にも歩くことを勧め、声をかけあいながら一緒に頑張っている。継続していきたい。

【M】

商工会議所では職域連携の窓口として、市内の事業所に健康経営の推進等をはじめとする各種事業を展開している。来年度も市内事業所で働く皆様への取組みとして、医師会と連

携し、無料健康相談の場所の提供や周知について協力させていただく。

今年度の幸せます健康まつりは、同日に市内で行われた他のイベントに参加した為、来場は叶わなかったが、多くの人でにぎわうイベント会場において、健康づくりに関する広報や防府市の取り組み等を紹介する機会をつくれば、より広く市民に周知できるのではないかと思う。

【議長】

イベントは重なることも多いため、一つのイベントとして大きくするのもいいかもしれない。商工会議所の補助を受け、従業員 50 人未満の企業で無料健康相談を行っているが、従業員 30 人以上の企業は産業医を持つ傾向にあり、国も力を入れ推奨している。

【N】

この委員会は広い視点で防府市の健康づくりについて考えているが、民生委員児童委員は地域の人々の生活を一生懸命考えている。地域で集まる場として、社会福祉協議会のふれあいいきいきサロンの活動に基づいて取組んでいる。以前、家庭訪問した高齢男性が1週間ぶりに人と話したと話されていた。女性と違い男性はふれあいいきいきサロン等地域の集まりに参加しにくい状況があるため、男性が参加する方法があれば意見が欲しい。

【O】

自治会連合会では健康まつりのようなイベントへの取組よりは、会員数の減少等の話題が中心となる。今後も、健康の大切さも伝えていきたい。

【議長】

地域で男性を巻き込むためには、孫や嫁など若い世代と一緒に参加できる機会があれば増えると思う。以前と比べ、地域でこどもが集まって遊ぶなどのつながりが無くなっていると感じている。

【P】

母子保健推進員はこども家庭センターから依頼を受け、生後3か月と1歳児、1歳半のこどもがいる家庭に、健診の案内や、誕生日のお祝いを持って行っている。その際に親の健康について話を聞き、こども家庭センターにつないでいる。母子保健推進員では、わいわいHOFU っ子のつどいを開催し、親子が楽しく遊べるよう工夫している、また、地域では親が子育てで悩んだり疲れたりされないよう、心が軽くなるような催しを行っている。少しでもこどもや親のお手伝いができればという思いでいる。

【議長】

自殺予防についても「孤独」がキーワードだと感じる。人とのつながりがあれば、相談できる人も多くなると思う。子育ても、以前は祖母や祖父母、親戚など地域にはベテランがいて、誰かに聞けば何とかかなり、面倒を見てくれたりしていた。相談できる人がいて、寄り添うだけでも自殺予防につながると思うので、また人とのつながりがある時代が来たらよいと感じた。

【Q】

議題1つ目の第3次計画について、市の担当者がこの委員会で出た意見をもとに作成し、庁内の推進委員会、議会、パブリックコメントと、それぞれの意見を聞いて計画を完成させていくというプロセスがあるが、やはりこの計画は推進委員から出た意見ひとつひとつがもとになっていることを改めて感じた。意見交換でも話題になった、男性の社会とのつながりや健康課題についても着目しデータをとってみると、もう少し必要な取組みも明らかになるかと思う。また、第3次計画にある各団体の取組について、それぞれが自分ごととして主体的なスタンスで意見をくださっていることがとても心強く、素晴らしいと思う。この計画をふまえて、それぞれの団体が実際の活動へつながると思う。

プラスワン運動で大腸がん検診を例に1%の受診率増加には約700人の受診者数の増加が必要との説明があったが、多くの人の行動が変わらないと数値が変わらないことからアウトカム数値の目標を達成することが難しいことが分かる。健康増進課では受診率を上げる取組を関係者の皆様と考えながら行っているため、長い目での変化が見られるのではと楽しみでもある。このように、アウトカムの数値目標だけを見ると変わらないという印象を持たれるが、計画の評価はアウトカムの評価だけでなく、この推進委員会の意見を通じてどんな体制づくりをしたか、どのような経過を辿ったかを見るプロセス評価もひとつである。あと、ストラクチャー評価として、健康づくりのための体制がどう変化したか、行政の中で予算確保され事業化できているか、地域の中で各団体と取組む体制ができているか等、成果以外での見方もある。防府市は推進委員会での発言から、幸せます健康まつりの取組みなど、数字ではあらわれない地域での取組み体制が良くなっていると感じている。4つの評価指標があり、あともうひとつの評価指標としてアウトプットという、どれくらい実施をしたかなどの実施量を見るものもある。幸せます健康まつりのアンケートで集計された参加人数などの実績について報告があり、このような内容をこの推進委員会で共有できることで、健康づくり計画の基になっていると感じた。健康の道や庁内の推進委員会で出た他部署との共通目的を確認し、連携して健康づくりの体制整備を行うこともストラクチャー評価であり、この地域で健康づくりを進めやすい体制づくりが進んでいると言える。

また、資料2の幸せます健康まつりの実績報告も、各団体の取組みと次回に向けての課題がポイントでまとめてあり、次回の健康まつりだけでなく各団体で実施されるイベントでも参考になると思う。参加された団体のそれぞれのイベントに活用できるという意見もあり、このような共有の場が各団体の活動にも役立ち、お互いがウィンウィンの関係ができている。あと、やまぐち健康応援学生サポーターについては、大学でも学生に参加を呼びかけており、サポーターになった学生にとっても活動の場を与えていただくとありがたいため、ぜひ活用していただきたい。

このような健康づくりの実際の内容を丁寧に紹介され意見を共有する場から、少しずつ防府市の健康づくりが進んでいくとよいと思う。

3 閉会